

スヴァーリとの独占インタビュー（3）

——悪魔的変貌（シェイプ・シフティング）

【訳者解説】「重い言葉」というものがある。一生涯、何かを求め続けた人の言葉は重い。純粋な悪と残酷の支配する集団に生まれ育ち、脱出してキリスト教徒になった、聡明な女性スヴァーリの言葉も、この上なく重い。すべてが実体験で、理論などではないからである。

彼女の体験談によって、我々は、悪魔というものが実在することを認めざるを得なくなった。いったい何のために無駄な残虐行為を、特に子供に対して行うのか、という疑問に対する答えが、そこから見えてきた。それは、彼らの仕える悪魔に対する義務、悪魔を喜ばせるための行為だと解釈できる。これによって悪も、その対極の善も、見えない実在の次元につながっていることがわかる。更にここから、謎だった、CIA（イルミナティに直結している）で行われている無駄な拷問の意味がわかってくる。また CIA の養育したテロリスト傭兵の、子供を狙う残虐さにもつながるだろう。更には、我々の周囲でますます増加している児童虐待とも、無関係ではないだろう。NWO とは、イルミナティの悪が世界を覆うことであろう。

ここに訳したのは、HJ Springer による Svali へのインタビューの Part 10（前半）と Part 11（後半）である。

Q: シェイプ・シフティングのところをもう少し教えていただけませんか？ 私は別のところで、その話を聞いたことがあります。それも儀式の最中に起こるのでなく、例えば、政治家にそれが起こるのを見たという人たちがいます。

あなたが「悪魔的」と言われるとき、それは特定の悪魔をいうのか、それとも悪魔のタイプなのですか？ それらの悪魔とは、実は、単にある種の ET がイルミナティに影響を及ぼし、彼らを騙しているにすぎないと考えていいのでしょうか？

A: あなたがシェイプ・シフティングのことをお尋ねになったので、もう少しお話ししましょう。しかし、それはまた私自身の信仰体系にも直接、関係します。それは避けられません。だからここで注意しておきますが、私が論ずるのは、基本的なキリスト教と悪魔的なものについてです。

悪魔的なものを栄光化する集団の中で育てられた後で、私は何年も前にキリスト教徒になりました。私が心から信じていることは、もしイエス・キリストへの信仰がなければ、私は

イルミナティから決して抜け出すことはできなかった、ということです。そして、私が記憶していることを話しても命の危険を感じない一つの理由は、私が神に護られていると信じているからです。

神の愛は、私がこの集団で見た残酷と悪の対極にあるものです。神の同情や無限の気遣いや純粋さは、性的虐待や、あの儀式を取り巻いていた暗さの対立物です。私は、神は私の過去を許してくださったと信じています。私は心の底から神の許しを求めました。そうしなければ、私が他者に対して行ったことの記憶とともに、生きることはできませんでした。（たった一つの例ですが、それは、若い女性を麻薬中毒にかからせ、このカルトのための娼婦にならせたことなどです。）

私はそういう生き方を完全に放棄しました。そしてキリスト教だけが、愛と許しと癒しを私に示してくれたのです。それは、人間が他者に示し得る人生の暗黒面と残酷さを見た後で、想像できないほどに倦み疲れた魂のために、私が必要としていたものでした。

オカルトの世界では、悪魔が存在すること、彼らが本物であること、そして彼らには霊的なヒエラルキーがあって、これをカルトのヒエラルキーが物的世界で模倣しようとしていることを、私は確かに信じています。

そこには君主的存在も下位の悪魔もいて、彼らは、人間たちが**入ることを許されない**、他の霊的次元に通ずる“ポータル”をコントロールしています。このしろものは、人々にとって極端に破壊的なものです。

シェイプ・シフティングは、通常は、完全に悪魔的なものに身を売った人々による、オカルト儀式に関連するものでした。人間がある一定時間、動物の形や、醜悪な様相の生物の形を取ったりしましたが、それらはエイリアンでは**ありません**でした。これは、人間に悪魔的なものを見せたり、彼らの見たものを歪めたりする悪魔的活動でした。

私は、悪魔的な影響力によって、人々が一時的に“盲目”になるのを見たことがあります。また、動物たちが、心霊的な力によって殺されたり、他の場合には、人々が円の中に入ってきて、彼らの“エネルギー”をある動物に向けると、その動物が死ぬのを見たことがあります。彼らはエイリアンではなく、彼らのある者は私が一緒に育った者たちで、私自身の母だったこともあります。（母は奇妙な様相でしたが、エイリアンでは**ありません**でした。）

私も時々、一緒に参加しましたが、私はエイリアンでなく、ただの傷ついた人間でした。私は、悪魔的な者たちは、確かに人間と性関係をもつことができると思います。それは聖書（創

世記)にも記録されていることで、神もそれを、完全に間違っただけとして禁じています。

実は、聖書の契約は、イルミナティによって行われている闇の契約の対立物で、私は聖典を読んで、神がどのように世界を見、霊的世界をどう扱われるかを知ることによって、多くの癒しを見出すことができました。神が勝利される予定で、戦いに勝つ過程にあります。

私が2年前に見た夢の話を見せてください。私は大きな、円形の、階段座席のある部屋に立っていました。花輪が上についた地球の大きなエンブレムが壁にかかっており、衣を着た人々が私を取り囲んでいました。私は、“最高世界評議会”(NWOが実現したとき世界を支配する)の前にいました。そして彼らは私を指さして、この者は反逆者で死なねばならない、と言っていました。

この部屋の暗黒と抑圧の感じは、耐えられないもので、私は窒息しそうでした。リーダーの一人が進み出て、私は反逆者として死なねばならない、彼ら全員に対する見せしめだ、ただ私が“家族”の囲いの中に戻れば別だ、と言いました。

私は、命が助かるための暗い衝動に負けそうになりながら、戦っていました。それから心の中で、「イエス様、お助けください」と叫びました。すると直ちに、神の愛と平和が私の心を満たし、私は恐怖を感じなくなりました。そこで私は彼に言いました、「お断りです、なぜなら、あなた方は敗北したからです、あなた方に、それがわかっていないだけです。あなた方は私の身体を殺すことはできる、しかし私は、あなた方と、この部屋にいるすべての人を敗北させた一人の神に仕えています。」

私はこの時点で、喜びでいっぱいになって目がさめました。私が、自分の過去についての質問に答えるのを厭わない理由が、これでお分かりでしょう。私は、悪なる人間たちの計画よりも偉大な神を信じます。彼らは、彼らの望むすべてを計画することができます。しかし最後には、彼らの計画は敗れるでしょう。

ですから、どんどん質問してください、いつでも。私は覚えているすべてをお話しします。私は彼らを暴くことを何とも思いません。もっとも私は、大いに冷笑的な気分になっています。前にも言ったように、人々がこれを聞いて行動に移るかどうかが疑問なのです。

私はあなたの究明しようとする欲求と、どんな可能性をも拒否しない態度に、敬意を払いますが、この集団のかつての終身メンバーとして、はっきり言えることは、私が活動しているのを見たのは悪魔であって、爬虫類(レプティリアン)やエイリアンではないということです。いったい、私が見た悪魔ほどに悪質で、特に聖書のキリスト教に故意に逆らうようなエ

エイリアンが、存在するものかどうか私には疑問です。

イルミナティの悪魔の存在証明

Q：スヴァーリさん、あなたはこの話を今まで、公的になさったことはありますか？ それともこれが初めてですか？

A：私は悪魔的な面にあまり深入りしたことはありません。なぜなら、それは非常に論争になりやすい問題だからです（この下の質問のように！）。私はこのことを、夫や、私のセラピストや、ある親友と話し合ったことはあります。私は“公的な”人間というわけではなく、カルトから抜け出そうとする人たちを助けるために、Suite101.com にいくつかの記事を載せているだけです。

私はセンセーショナルな話題は、個人的にも避けたいのです。特にこの場合は、本当の問題から注意をそらす可能性があるからです。子供たちが傷つけられ、虐待されています。そして虐待はやめさせなければなりません。悪魔だろうが、エイリアンだろうが、何だろうが、悪なる男（や女）たちがいて、幼い子供を利用して、彼らの苦痛から自分の糧を得ようとしている者たちがいます。これこそが、私がこの集団を告発している理由です。

Q：おそらく、こんなふうにする読者が、かなりいるものと思われます、「おいおい、これはサイエンス・フィクションじゃないか、こんなことが現実にあるものか！」そう言って彼らは、何らかの証明か証拠を見せてくれと言うでしょう。それに対してはどのように答えられますか？

A：私は、「儀式に行ってみなさい、いくらでも見られるから」と答えるでしょう。ただ私は誰にも、この種の悪を見てほしいとも、その近くにいるほしいとも思いません。霊的な現実には物的なしるしを残しません。しかし面白いことに、記録された歴史を通じて、人類はこの種の現象について書き残しています。

我々の記録された歴史のすべてが、偽物だということがあるのでしょうか？ 人類はこの領域では世紀を通じて、病的にウソつきだったということがあるのでしょうか？ アフリカへ行ってみれば、やはり、オカルト集団によって行われるシェイプ・シフティングの話が聞けるでしょう。しかもそこでは精神遊離しないのです。だから、完全な意識状態でそれを見た人たちをインタビューすることができます。

南米やアジアでもこれが起こっています。どうして世界的に見られる現象が、互いに接触したことの無い集団によって、デッチあげられるのでしょうか？

悪魔的なものはその痕跡を残すでしょうか——これと指摘できるようなしるしを？ いいえ、残しません。しかし、それを目撃した人々に、消えることの無い心の刻印を残さないかと言えば、確実に残します。中世より前の時代でさえ、この種のものは記録されています。

私は、こういうことが起こっているところを、ビデオにも、スナップショットにも撮りませんでした。だから人は、それを信ずるか信じないかを、口頭の証言に基づいて決めるしかありません。私はどうせよとは言いません。私は自分の見たことは分かっています。

Q：もし何か最後のコメントがあれば、あるいは我々が触れなかった領域で、これは知っておいてほしいと思われる問題がありましたら、どうぞ教えてください。

A：誰でも、もし、大人によって残忍に扱われた子供のすすり泣きや、心理的に恐怖を与えられた子供の金切り声を聞いたなら、その人は、この虐待を止めるために、どんなことでも自分にできることをするでしょう。

3歳か4歳くらいの幼い子供がポルノ・フィルムに使われ、もし応ずるのを拒否したら、あざができるほどに殴られています。よちよち歩きの子供が、残忍な光景を見るように強制され、次に棒を与えられて、その被害者のところへ行って、自分で叩くように、それとも叩かれるかと強制されます。子供は躊躇し、いやだと言うと、大人はその子を叩きます。やがてついに子供は大泣きをしながら、不承不承、大人の命令に従います。これは想像できない残酷です。

あるいは、それよりももう少し大きい子供が、首に電気の通った犬の首輪をはめられ、もし“逃げよう”とするとショックを与えられ、動物のように扱われ、彼を取り囲む大人や年上の子供に笑われます。子供は藪のところまで行き、恐怖と自己嫌悪のために嘔吐します。

こうしたことは、誰でもイルミナティで生き残った者たちの心に、焼き付いている映像です。そして、これこそ私が、彼らを暴くために、彼らのことを書き続けようとする理由であり、私が心の底からの祈りによって、これがなくなることを求める理由なのです。私はこれが、私の作り事であれば、どんなにいいかと思うのですが、そうではないのです。私はこのような映像が、私の記憶に刷り込まれていないことを願うのですが、そういかないのです。

Q：スヴァーリさん、あなたは読者からの質問やフィードバックを、何らかの将来の記事の

形で、受け付けようと思っておられますか？ きっと何かの点について、いくつか質問が来るのではないかと思うのです——おそらくあなたのお話についての補足のような。

A：私は読者の質問が、まずあなたのところに行き、その上で、もし可能なら私に転送していただきたいのです。私は“ヘイト・メール”のようなものを受け付けたくないのです。なぜかと言うと、私が書いているのは論争を引き起こす性質のもので、“政治的に正しくない”ことだからです。

私はきっと、「そんなの、彼女が注目されたがっているだけだよ」と言う人たちがいると思います。私は確かに、私の教えている、生徒で満員のクラスで注目されています。また、虐待以外についての論文を出版して注目され、収入にもなっています（それについて書く場合はそうなりません）。

そうではありません、私はこういう人たちを暴こうとしているのです。それが私の動機です。私の書くことを信ずる人も、信じない人もいるでしょう。私はそれでいいのです。不信を發表したい人がいれば、それでもかまいません——私への憎しみの言葉でさえなければ、また私が馬鹿だとか無教育だと言うのでなければ。（はい、そういう手紙を時々貰います。）

申し訳ないが、それはどちらも当たっていません。私は2つの大学の学位をもっています。カルトから要求されて、そうせざるをえなかったのです。彼らは愚か者を指導者にはしないのです。

おお、それから HJ さん、私はあなたから姿を隠したり、書いたことを取り消したりはしません。いつでも質問があれば E メールしてください。私は喜んで、この集団がどれほど悲痛に満ちたものかを暴露します。ああちょっと、これはキリスト教徒らしくありませんね。だけど神様は、正直さを褒めてくださるのではないのでしょうか？ 私はただ正確に説明しているだけです。私は今も許しを求め続けています。お分かりのように・・・

Q：スヴァーリさん、このような体験を私たちに知らせる時間を取っていただいて、感謝申し上げます。これはきっと、簡単でも楽しいことでもなかったと思います。私は心から、あなたと、あなたのご家族のお幸せを祈ります。おそらく、ますます多くの人がこれを読んで、この記事を他の人に回すことでしょう。このショッキングな残虐行為、子供の虐待、イルミナティそのものを、我々はいつかやめさせることができるでしょう。遅すぎるということはありません。スヴァーリさん、このインタビューを本当にありがとうございました。

*イルミナティに関するスヴァーリさんへの質問は、centrexnews@yahoo.com へ回してく

ださい。